

第 27 回自然保護講座 in 青森

テーマ：大型風力発電による自然破壊と健康被害

自然保護委員 かがりび山の会 山本久美子

日時：9月27日～9月28日

場所：弘前市岩木青少年スポーツセンター

参加者：都府県から60名(会場46名WEB14名)

千葉県から 会場4名+WEB参加者2名

報告：

最初にMご夫妻(元秋田県連会員)から風力発電による被害報告があり、秋田県内の風力発電の現状とそのもとでの健康被害の状況と取組みの説明があった。記念講演は佐々木邦夫氏(風力発電を地域から考える全国協議会共同代表)から「風力発電が稼働した地域での課題」と題し、北海道での現状と課題の説明があった。北海道では、陸上風力が460基稼働、その約4.3倍の1993基が計画され、洋上風力も日本海側中心に数多く計画中である。全稼働中の59%が道北にあり、うち宗谷地方は面積では京都府と同程度のエリアに820基出来る予定となる。

風力発電による影響は①風車騒音による影響、②シャドウフリッカーによる影響、③作業道における法面崩壊、④鳥類への影響(バードストライク)、⑤魚類への影響(絶滅危惧種)、⑥航空障害、などによる影響など様々な問題が生じている。天然記念物で絶滅危惧種のおじろワシのバードストライクが営業開始の1年9ヶ月で11件発生している地域もある。地域外からの自由な経済活動を行う発電業者の利潤追求の場になっているのではないのか？地域にとってのメリットとは？意思決定への住民参加の問題、環境アセスメントの問題、エネルギーの地産地活など課題も提起された。

7 地方連盟報告(岩手、宮城、京都、大阪、徳島、奈良、滋賀)から自然保護活動の取り組みや大規模開発問題等が報告され、各地で起きている風力発電やメガソーラ計画なども多く出された。

質疑・交流では、自然エネルギーのあり方や原発に依存しないエネルギー政策をどの様に進めたら良いのか等が課題として残った。

夕食の懇親会では全国の会員と交流を深める事が出来た。



岩木山交流山行

開催地の青森県連、協力の岩手県連のお世話で岩木山交流山行が行われ、40名が参加した。地元の人からも珍しいと称賛された快晴、8合目ターミナルを出発し山頂から360度の大パノラマの眺望を楽しんだ。山頂からは、日本海側の海岸から平野にかけ



大型風車が林立している状況を確認することが出来た。課題を共有し交流を深めることができ大変有意義な2日間の自然保護講座になった。